

足立区立西伊興小学校

校長 金田 耕一 様

足立区立西伊興小学校 開かれた学校づくり協議会

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

（1）学力向上アクションプラン

- ・目標値通過率が9割には達しなかったが、平均正答率は区平均を上回っており、次年度は9割の達成を期待している。
- ・小中連携は、各ステージにおける成果と課題を共有できたことは素晴らしい成果である。その過程において児童生徒並びに先生方が主体となる場面が増え、さらなる向上を期待する。
- ・E S D—S D G s への取り組みは、児童が主体的に取り組んでいる姿や学習活動の成果について授業参観等を通じて確認することができた。また、昨年度に引き続き、地域の町会と協働して普段訪れている公園や道路等々の清掃活動にも積極的に取り組むことができ、ぜひ継続していきたい。
- ・読書については、学力向上の基盤である読解力の向上に寄与しているものと理解。ただし、国語の授業の一環として読書をするという観点では継続しない可能性がある。やはり、自分のわからないことや興味のあることを知るためにも図書館へ行き、読書をするという習慣を身に付けることが重要であると考え。引き続き図書館を積極的に活用しながら、併せてI C T機器活用と並行していくことも時代的に必要である。
- ・高い目標に向けての努力が感じられる。
- ・3年3組の担任が途中で休みになっても、主幹教諭と副校長のバックアップにより、特に学力面での悪い影響を受けずに良かった。
- ・授業公開等で子供たちが主体的に授業に参加し、深く学び合っている様子が見られる。「学び合いの当事者として取り組めているか」という視点をもって先生方が取り組んでいる結果が目に見える形で現れている。
- ・公開授業が増え、とても嬉しい。アンケートがあれば積極的に答えたい。
- ・学校での取り組みがとても理解できる。次年度も継続して欲しい。特に高学年をもつ保護者として、中学校に入ったら、どういうことを意識していかなければならないかなども伝えていただけると助かる。
- ・純粋に読書を楽しむことで日常への読書にもつながると考える。漫画、小説を問わず、教師から児童への本のプレゼン、教師同士の本のプレゼンによっても興味がわくのではないかな。プレゼンには国語能力が必要なため、授業だけでなく朝学習にも取り入れても良いと考える。

(2) 協働的な学び合い

- ・日本人として決して得意とは言えない「自分の意見を発表する」機会を創出している点は、公開授業等を通じて実感できた。また、異学年との交流の場を増やすことにより、世代間を超えた交流を経験できることは貴重である。将来的に世界に伍して戦っていける人材になることを期待しながら、地域の高齢者も巻き込んで、さらに経験値を広げて欲しい。
- ・いじめは日常如何なところでも発生することを考えると、職員夕会での先生方の情報共有を密にし、早期発見・早期対応を学校全体として取り組んでいる点を大いに評価。引き続き、いじめにつながりにくい学校のカルチャーを継続していけるように保護者並びに地域とも連携して対応して欲しい。
- ・異学年との交流が各学年にとって様々な対話から深い学び合いに繋がると考える。
- ・児童の気になる様子の情報を教職員で共有することは、児童の精神面やいじめの早期発見・対応や解決につながり、結果として出ている。
- ・道徳授業における日々のコミュニケーションによって子ども達のより良い言動が増えている。
- ・道徳授業地区公開講座を通じて、家庭でも子どもと学び合う機会を得ている。
- ・本年度イベントを通じて不登校の児童が多いことを認識した。一人一人の問題を明確にして対応することは困難だが、このまま学校と保護者が連携して対応して欲しい。
- ・人権や道徳の学びでは、なぜそれを学ぶのか。また、いじめは0にはならないが、なぜ、いじめをしてはいけないのか。いじめは単に悪いこと、してはいけないことではなく、犯罪であることを高学年になるにつれて自覚する必要があるのではないか。

(3) 体力向上と病気の予防

- ・年々低下している児童の体力調査である。単年度で変容を確認することができれば理想ではあるが、極めて厳しい目標であると思う。中期的なステップ感をもった体力向上策を策定し、一步一步改善を図っていくことが肝要である。協議会としても学び塾等での機会を通じて協力させていただきたい。
- ・東京都体育健康教育推進校として、講師を招聘するなどして校内研究に積極的に取り組み、一日平均欠席者数が昨年度比大きく減少するなど、しっかりと結果も出している。また、土曜に開催されている体育科学習公開には保護者の方の参観も見られたが、保護者や地域の参画が課題との認識があれば、参画を促すように協議会としても協力していきたい。
- ・これからも様々なスポーツを通して楽しみながら体力向上に努めて欲しい。
- ・体育の時間が楽しく、前より体が強くなっている。
- ・体育授業や健康授業の充実によって体力向上に向かっていると感じる。子ども達からは体育授業が楽しいという声をたくさん聞いた。病気の予防という観点では、保健委員会の手洗いによる効果を食パンを使った実験がとても良い取り組みであると感じた。
- ・縄跳び月間等、寒い時期での体力づくりはとても良い。
- ・取り組みがよく理解できた。目標実現に向けて継続していただきたい。
- ・この1年で体育授業に力を入れたことで子供たち自身にどのような変化があったのか知りたい。学力はテストの数値で判断しているが、子供たち一人一人は、生活習慣や運動習慣においてどのようなあったのかわからない。1年間に対するアンケートをとるのはどうか。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・欠席者が減少したことは、児童が学校に集い、協働的な学び合いを実現する多くの機会が得られたということであり、大変喜ばしいことだと感じている。一方で、登下校を含めた放課後や休日における児童の過ごし方までは、当然学校の先生方の目が届かない。交通安全、防犯防災、SNSの使い方等については、まずは家庭にて教育・指導していくべきである。ただ、共働き家庭が多い環境において、地域のサポートが重要であると認識している。放課後こども教室のさらなる拡充、町会との連携等を模索していくことも一案であると考えている。
- ・開かれた協議会のたびに授業を参観でき、学校の様子が分かって、とても良い。
- ・家庭はもとより地域や町会と連携し、みんなで子供を見守ることが必要である。
- ・学童擁護員が配置され朝の交通安全運動が充実してありがたい。
- ・子供たちの成長のために教育環境も協働的な学び合いで常に創り続けていくものだと感じている。
- ・学校、家庭、地域が連携し、互いに尊重し合うことで、子ども達が自然にその姿を学び、他者を思いやる心や社会性を育めるよう、保護者も協力していきたい。
- ・学校、保護者、地域の連携はとても必要性を感じる。
- ・欠席者数減少について、教室に行けなくても給食だけでも食べに来て欲しいという考えに感銘を受けた。

3 その他

- ・日本だけでなく世界が大きく変動する不確実性の時代において、自分で考え、決断し、実行し、そして生き抜いていくために必要とされる知恵と経験を積み上げることができるかが大きな鍵となる。学校だけでなく社会全体で担っていきましょう。
- ・風の強い日の登下校安全を考えていきたい。
- ・学校からのICT機器を使った情報発信は保護者にとって非常にありがたい。ブログやH&S、Google Class roomを通じて、学校の様子や教育方針、子ども達の活動を知ることで、家庭での学習などのサポートに役立っている。先生方の負担にならない範囲で、今後も継続してほしい。
- ・学校給食の試食会を復活して欲しい。
- ・これからの時代を生き抜いていかなければいけない子ども達だから、考える力・決断・実行をしっかりとできるようになって欲しい。
- ・多様性を認めるのは良いことですが、全てを受け入れる必要はありません。そこを大切に教育の発展を祈念している。